

NECエレクトロニクス 隣 真

今見ているのは、インターネット検索で見つけた長崎県島原市で発生した土石流の写真である。道路も家屋も土砂で埋め尽くされている。おや、ここには動画もあるではないか。谷間を凄まじい勢いで濁流が流れている。

私がCMPを知ったのは1992年、某装置メーカーから流れてきたCMP後ウェーハの断面SEM写真が最初であり、その瞬間私はこれで行くことを決めた。

いま島原災害の記録を見ると、どうもそれから一年以上先のことらしい。私は土石流シミュレーションをしてくれる人を探すために、ワープロでチラシを作り、カミさんの友人の伝手を頼って某ゼネコンにそのチラシを配ってもらったことがあった。カミさんはいつの頃かまったく覚えてないという。だからインターネットで調べることにしたのである。

CMPを決心して即、社内でCMPを始めていた研究部門とコンタクトを取り一緒に一から始め、一喜十憂くらいしながら、部材メーカーさんの知恵も借りつつ、抵抗勢力が見たら思わず勝ち誇ってしまうかもしれない原始的な装置で、それでも担当者は粉まみれの身を粉にして働いて、1年後には、社内でももはやこれで行くしかないだろうというような、その気にさせる程の素晴らしい結果がでていた頃である、土石流が起ったのは。

当時、開発に明かりが見えたのに逆に心配になったのは、CMPで平坦になる理由がはっきりしなかったことである。実はLSI製造において我々は、過去に何度も不確実な新技術に振り回されてきた経験がある。そこで計算してみた、ウェーハを地球サイズに見立てると、パターンの凹凸は、丘陵地やハイウェイや高層ビルである。そして山手線内はすべて更地にして埋立地並みに平らにしたいことになる。そのために直径2mの岩を含んだ猛スピードの濁流を使う。これはまさに島原土石流大災害ではないか。ちょっと不謹慎であるが、大発見をした気分で、一気にチラシを書いたことを思い出した。